

Denka

Possibility
of
chemistry

www.denka.co.jp

Corporate Profile

世界に誇れる、化学を。

Possibility of chemistry

世界のために、化学ができること。

デンカは、化学の力で世界をより良くするために、社会が必要とする新しい技術を創出し、安定的な製品供給に努めます。

2023年、デンカは2030年までの8ヶ年を対象としたビジョンと経営計画「Mission2030」を策定し、新たな一歩を踏み出しました。

「2030年までに、人財・経営価値を高めスペシャリティ・メガトレンド・サステナビリティの3要素をそなえた事業価値創造に集中する。」

というミッションのもと、事業・人財・経営の3つの価値を創造。

デンカの企業価値を高め、存在意義を明確化し、デンカのDNAである

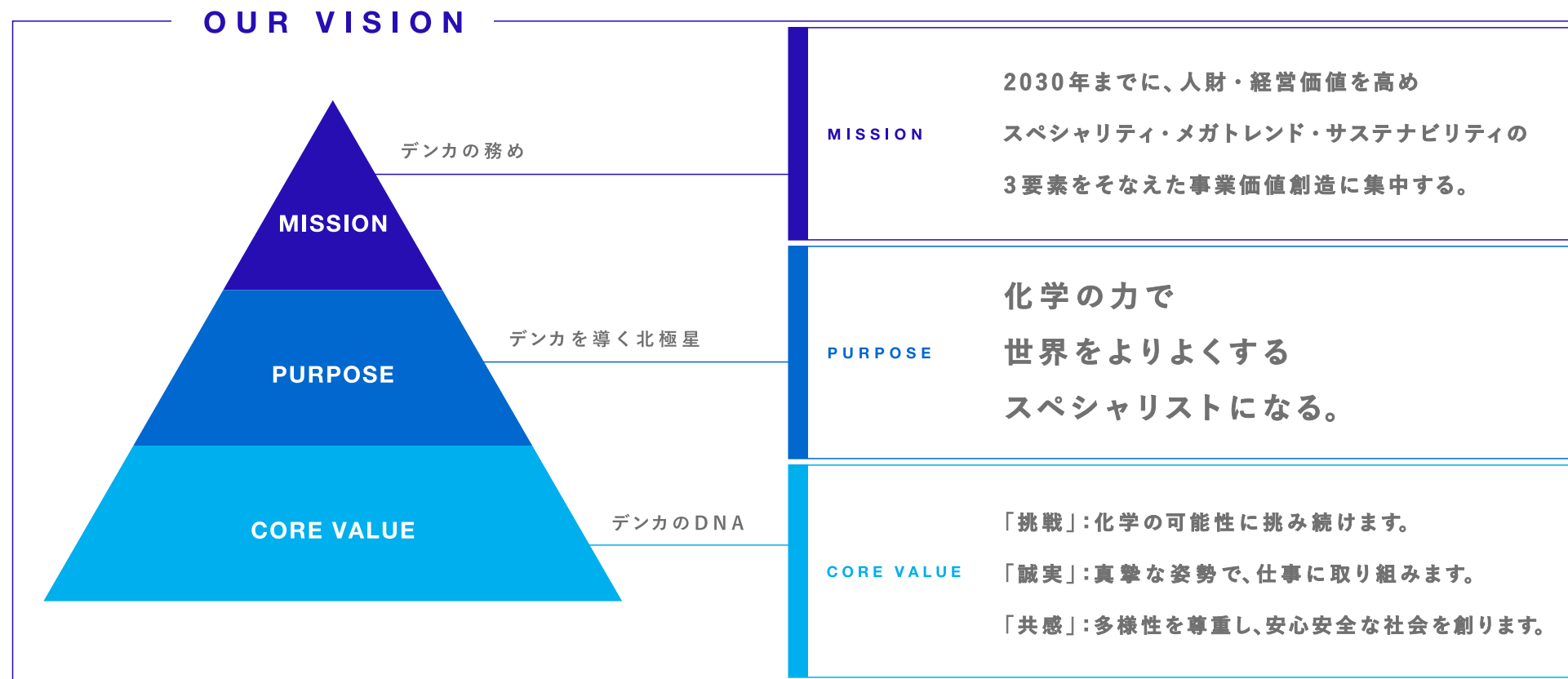
「挑戦」「誠実」「共感」の姿勢で、明日のデンカを創っていきます。

化学の未知なる可能性への挑戦が、社会の安心を支え、

豊かな未来を創っていくとデンカは信じています。

ビジョン

2023～2030年度までの8カ年を対象とする経営計画「Mission 2030」策定にあたり、2023年4月に始動する新たなビジョンを定めました。
今後当社の中核となっていく若手社員の忌憚のない意見に、経営陣の想いを加えて策定したビジョンは、デンカのDNAであるコアバリューを土台とし、
デンカを導く北極星となるパーパス、2030年に成し遂げたい務めとしてのミッションを重ねた構成となっています。
これにより、概念を構造的に視覚化することで、全従業員が自分ごと化できる新しいデンカのビジョン（未来像）を表しました。
また、ビジョンを社内外に分かりやすく伝達する言葉として、コーポレートメッセージを創りました。



コーポレートメッセージ 世界に誇れる、化学を。

経営計画「Mission 2030」実現へ向けて

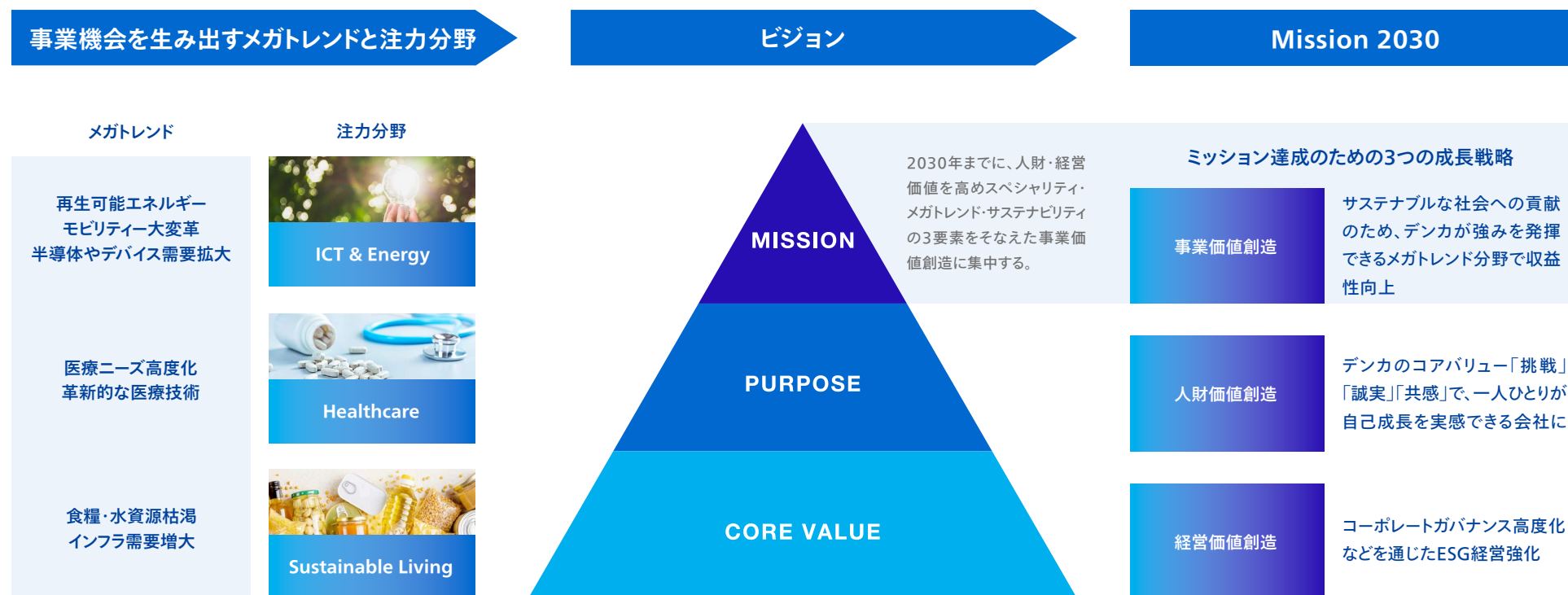
ビジョンは、今後想定される世界を分析し、そこから新たな事業機会を生み出すメガトレンドと注力分野をもとに構築したものです。

ビジョンの実行目標であるミッションを達成するため、当社は、事業価値、人財価値、経営価値という3つの価値創造によって成長戦略を推し進め、企業価値の向上につなげていきます。

2023～2025年度のフェーズ1を経て、2026～2028年度のフェーズ2は「稼ぐ力の再構築と新たな成長ステージへの基盤固め」に注力する期間と位置づけ、

「戦略的拡大」「先行投資の刈り取り」「資本効率改善・事業モデル転換」の3つの戦略で計画を実行していきます。また、フェーズ3以降では再構築した稼ぐ力を基盤に、

「異なる成長トレンドを持つICT&EnergyとHealthcareのベストミックス」を確立させ、企業価値の持続的な向上を実現します。



Denka City

社会のあらゆる場面で、デンカのソリューションと製品群は活躍しています。
 便利さ、快適さ、安心、環境への配慮など、たくさんの幸せを届けることが、
 挑戦の原動力であり、わたしたち一人ひとりのよこびです。

- 電子・先端プロダクト部門
- ライフソリューション部門
- エラストマー・インフラソリューション部門
- ポリマーソリューション部門



放熱フィラー
デンカ球状アルミナ



車のワイヤーハーネス
ビニテブ®



排ガス浄化装置の把持
デンカアルセン®



特殊ゴム
デンカER®



パワーモジュール
デンカアルシルク



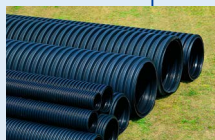
リチウムイオンバッテリー
デンカブラック®



工業用ホース、ベルト等
デンカクロブレん®



自動車内装
デンカIP®



プラスチック製の排水管
トヨドレン®



吹付けコンクリート用急結剤
デンカナトミック®



家電、OA機器、フラットパネル
ディスプレイ、雑貨等
MS樹脂、MBS樹脂

半導体の輸送工程
キャリアテープ用シート
カーパテブ



液晶TV、PCモニター、ノートPC
アロンプライト®

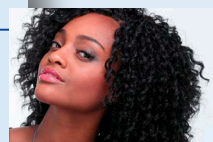


ペットボトル用ラベルフィルム等
クリアレン®

食品容器等
サーモシートBOPS®



POCT検査試薬



ファッション用ウィッグヘアピース
Toyokalon®



基礎化粧品
uruoi



インフルエンザHAワクチン



バイオスティミュラントとして、
作物の健全な育成や環境ストレス軽減に
役立つ腐植酸液肥



Electronics & Innovative Products

電子・先端プロダクツ部門

高速通信・再生可能エネルギー・xEVに欠かせない各種最先端素材を通して、豊かな社会の実現に取り組んでいます。

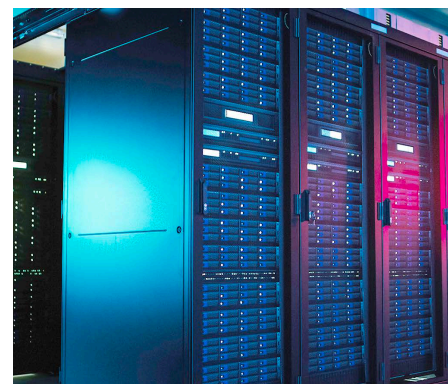
(半導体製造や電装基板に使用される高放熱セラミックス材、xEVのリチウムイオンバッテリー向け導電材、半導体製造プロセス用各種フィルム・テープなど)

低誘電有機絶縁樹脂 (スネクトン)

生成AIや高速通信技術の進化に伴い、データセンターや通信インフラの高度化が進んでいます。スネクトンは、デンカ独自の重合技術を活かして開発された低誘電有機絶縁樹脂で、電気信号の伝送損失を抑え、高速通信回路基板に求められる優れた電気特性を実現します。低吸水性に加え、銅箔との高い密着性と耐久性を兼ね備え、硬質系・軟質系の両グレードを展開。各種ガラスクロスやフィラーとの最適な配合提案で、高度化する通信ニーズに応えます。



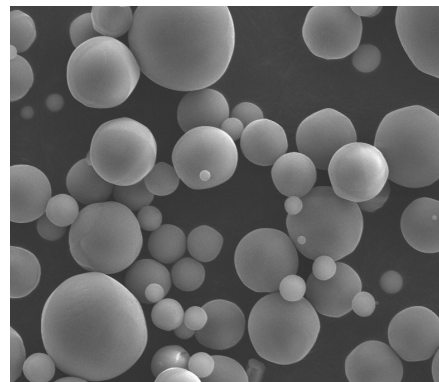
スネクトン



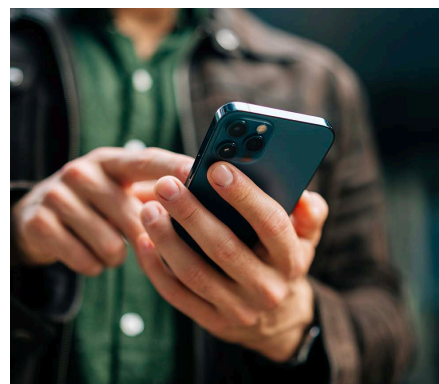
データセンターの使用例

高機能球状フィラー (球状シリカ・球状アルミナ)

デンカ独自の高温熔融球状化技術により開発した球状アルミナは、樹脂やゴムへの高充填が可能な放熱フィラーです。車載やエレクトロニクス分野の熱対策用途で幅広く採用され、世界シェア1位を有します。また球状シリカでは低誘電正接グレードの生産能力を強化し、半導体封止材やxEV、5G通信など将来の社会インフラを支える分野での用途拡大と採用領域の拡がりに対応しています。



球状アルミナの電子顕微鏡写真



スマートフォンの使用例

エネルギー・インフラ向け導電材料 (アセチレンブラック)

「アセチレンブラック」は、高純度で優れた導電性を持ち、電気自動車向けリチウムイオン二次電池や高圧ケーブルの半導電層に使用されています。デンカは本材料で世界トップクラスのシェアを誇り、国内2拠点、海外1拠点の複数拠点で生産しており、グローバルな供給体制を構築しています。今後は、新たにタイ工場を立上げ、需要に対応していきます。



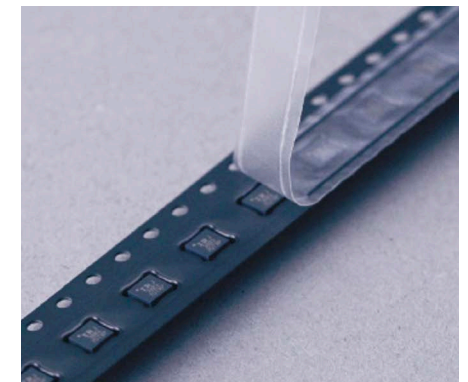
アセチレンブラック「デンカブラック®」



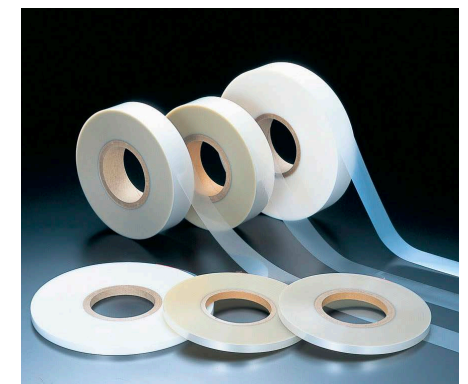
高圧電力ケーブル被覆材への使用例

半導体・電子部品搬送用シート・テープ (キャリアテープ用シート・カバーテープ)

半導体や電子部品は、出荷の際にキャリアテープとカバーテープで保護するため、素材の凹凸で部品が傾いたり静電気によって部品がカバーテープに付着すると、回路基板への実装不良の原因となります。デンカでは、原料の配合からシート・フィルム開発、量産まで一貫してアプローチできる強みを活かし、半導体・電子部品の安定供給につながる製品を生産しています。



キャリアテープ用シート使用例



カバーテープ(デンカサーモフィルム®ALS®)

Life Innovation

ライフイノベーション部門

インフルエンザワクチンや、新型コロナウイルスの
抗原迅速診断キットをはじめとする検査試薬などの
製品で世界の人びとのQOL向上に取り組んでいます。



ワクチン

人々を感染症から守るため、国内主要ワクチンメーカーとして、安全性と有効性を追求した、インフルエンザなどのワクチンを開発・製造しています。インフルエンザワクチンは、インフルエンザ発病を一定程度予防することや、発症後の重症化を予防する効果があります。また、現在デンカは、VLP Therapeutics Japan株式会社（VLPTジャパン）、一般財団法人阪大微生物病研究会（BIKEN財団）と、レプリコン（次世代 mRNA）技術を用いた季節性インフルエンザワクチン開発に関する共同研究を行っております。



インフルエンザHAワクチン

POCT(抗原迅速診断キット)

医療現場で検査機器を必要とせず感染症の抗原などを簡便・迅速に測定することができる検査キットを国内外に提供しています。「クイックナビ™-Flu+COVID19Ag」は新型コロナとインフルエンザを同時に判定できる迅速診断キットで、短い時間で抗原の有無を判定できます。この他にも、RSウイルス、アデノウイルスなど、多くの感染症に対応した迅速診断キットをラインアップしており、感染症分野の迅速な診断に貢献しています。



新型コロナ・インフルエンザ同時検査用迅速診断キット

臨床検査試薬

当社の臨床検査試薬は、主に病院・検査センター・健診センターの自動分析装置で使用されており、血液などの検体中の成分を測定することで、診断および治療に必要な情報を正確に提供します。当社は、臨床検査試薬として、免疫血清検査試薬、臨床化学検査試薬、ウイルス検査試薬など、多くの製品を提供しています。免疫血清検査試薬は、体内の炎症や心筋梗塞、癌、アレルギー等の異常の診断に用いられています。



自動分析装置用試薬

Elastomers & Infrastructure Solutions

エラストマー・インフラソリューション部門

創業以来のカーバイドチェーンを活かし、機能性エラストマーや、
インフラ強靱化に必要な特殊混和材、農業向けコルゲート管、肥料など
有機から無機までの幅広い技術で人々の安全で安心な生活を支えています。



クロロプレンゴム (デンカクロロプレン®)

クロロプレンゴムは、独自技術により国内で初めて事業化された特殊合成ゴムで、デンカは世界最大の生産能力を有しています。耐熱性・耐オゾン性・耐油性などの物性バランスに優れていることから、自動車から工業部品、接着剤、ウェットスーツ、医療用手袋など多彩な用途で使用されています。デンカではニーズに応じて新品種を増やし、広範なグレードを取り揃えております。



デンカクロロプレン®

吹付けコンクリート用急結剤 (デンカナトミック®)

「デンカナトミック」は、トンネル掘削の工事現場で地山が崩落しないよう吹付けコンクリートに混ぜてコンクリートを数秒で固める特殊混和材です。全国の新幹線や道路トンネルの整備工事等で使用されています。トンネル工事現場の安全と働く作業員の命を守る重要な役割を担っており、国内でトップシェアを誇る製品です。



デンカナトミック®によるトンネル吹付け工事

石灰窒素

石灰窒素は、デンカ創業以来製造されている、農薬であり肥料でもある製品です。土壌に施用した直後は農薬として作用し、その後、緩効性の窒素肥料となります。農薬成分が残留しないことが特長の一つです。また名前のとおり石灰分も含んでおり、施肥効果に加えて土づくりにも寄与する多機能な製品となっています。この石灰窒素の多機能性を、厳しさを増す農業環境に対応するソリューションの一つと捉え、時代に即した切り口で、今なお用途開発を進めています。



石灰窒素

あんきよ 暗渠排水管(コルゲート 「トヨドレン®」「RaRaSui®」)

デンカは1963年にプラスチック製排水管の製造を開始し、農業用の暗渠工事に採用されて以来、トンネルや道路建設に至るまで、土木工事の近代化に貢献してきました。水閘、排水口、給水マスと暗渠管「トヨドレン」を一体的に利用する地下かんがいシステム「RaRaSui」は、水管理の適正化により水田の畑地化や汎用化、直播栽培を可能とし、低コスト農業を実現するほか、畑作の高品位・安定多収をサポートしています。



トヨドレン®

Polymer Solutions

ポリマーソリューション部門

スチレン系機能性樹脂や食品包装用シート、ウィッグ・ヘアピース用合成繊維、ポパール等化成品まで、幅広い製品群により自動車や電機、電子、食品など様々な用途で人々の暮らしを支え、持続可能な社会の実現に取り組んでいます。



高透明樹脂 (クリアレン®)

「クリアレン」は、飲料ボトルやトイレタリー用品のシュリンクラベル、食品包装容器、化粧品のキャップ、玩具など、幅広い用途に使用されています。衝撃性に優れた透明樹脂で、特殊な熱収縮挙動、高い嵌合性やヒンジ(屈曲疲労)性、破断面が鋭利になりにくいなどの様々な特性があります。また、使用後のペットボトル分別の促進、リサイクル材の利用など、環境負荷低減のソリューションを提案しています。



ペットボトルラベルの使用例

MS樹脂 (デンカTXポリマー®)

「デンカTXポリマー」は、液晶TV及びモニターに使用されるバックライト用導光板をはじめ、化粧品容器や高級雑貨など様々な用途に使用されています。アクリルより優れた寸法安定性とアクリル並みの高い光透過率を誇り、光学用途やデザイン性の高い製品に最適な透明樹脂です。また、アクリルと比較して成型加工時の使用電力の低減、比重による製品の軽量化などにも貢献しています。



デンカTXポリマー®を使用した化粧品容器

耐熱付与剤 (デンカIP®)

「デンカIP」は、ABS樹脂の耐熱付与材として、自動車の内装・外装部品や家電製品に使用されています。IP添加により、ABS樹脂の耐熱温度を高めることで、熱による部品の変形を抑え、安全性の向上に貢献しています。また、自動車部品の軽量化や無塗装化、低VOCによる車内環境の改善、ABSのリサイクル材を使用した耐熱ABSの生産による自動車用途への再使用など、環境負荷低減にも寄与しています。



自動車内装の使用例

食品包装材料 (サーモシートBOPS®)

「サーモシートBOPS」は主に食品容器向けに使用されており、従来のスーパーマーケットのフードパック、コンビニエンスストアの弁当容器の蓋などに加えて、近年ではテイクアウトやデリバリーといった分野にも需要が拡大しています。優れた透明性と曇りにくい特性により内容物の商品性を高めることができます。また、当社独自のシート成型加工によりさらなる薄肉化が可能となり、容器の軽量化を実現、CO₂排出削減、廃棄物の削減に寄与しています。



食品容器の使用例

新事業開発部門

次世代に向けた新事業創出活動の強化を目的とし、スタートアップとの協業やコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)設立など、新たな事業創出を推進します。

CVC(コーポレート・ベンチャー・キャピタル)ファンドを設立

新規事業の創出と新規技術の獲得を目的とし、ベガス・テック・ベンチャーズとCVC(コーポレート・ベンチャー・キャピタル)ファンドを設立しました。このCVCファンド設立により、最先端の技術・製品やビジネスモデル、事業アイデアを有するスタートアップ企業への出資や事業提携を通して、新規事業創出の加速を目指します。国内外の有望なスタートアップ企業が保有する技術や事業と、デンカ独自の技術をはじめとする経営資本を掛け合わせ、社会課題解決に資する事業創出に取り組みます。米国シリコンバレーにあるベガス社には社員を派遣し、投資スキルやスタートアップの目利き能力を高める人材育成にも力を入れています。



放熱フィラー事業の強化に向けて韓国スタートアップへ出資

当社は、次世代放熱材料の開発強化に向け、韓国スタートアップ Naieel TechnologyへCVCファンドを通じて出資しました。同社は、低エネルギー・低コストで高純度な窒化ホウ素ナノチューブ(BNNT)を製造可能とする独自の「Thermochemical process」を確立しており、BNNTの高い熱伝導性や耐久性を活かした幅広い用途開発を進めています。当社は同社と連携し、AIサーバーや半導体パワーモジュールの高熱伝導ニーズに応える次世代放熱フィラーの共同開発を推進していきます。



導電性ポリマーの活用で次世代エレクトロニクス分野事業を強化

当社はCVCファンドを通じ、導電性ポリマー「PEDOT/PSS」を原液製造から配合液開発まで一貫して手がけるクレバ社へ出資しました。PEDOT/PSSは高い電気伝導性・透明性・柔軟性を備え、コンデンサや次世代ディスプレイ、フレキシブルデバイス、再生可能エネルギー分野など幅広い用途で期待される素材です。当社が長年培ってきた高分子合成技術との組み合わせにより、高性能の導電性ポリマーの共同開発や新規用途展開、製造プロセス構築を進めます。両社の技術的シナジーを通じて次世代エレクトロニクス市場への対応力を強化し、グローバル展開を加速していきます。



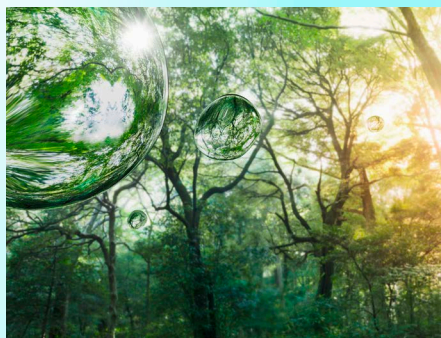
サステナビリティと環境方針

環境問題が生態系の存続を脅かす最重要課題である状況下、サステナビリティの追求は、企業が社会的責任を果たし事業を継続するために必要不可欠であると同時に、製品競争力の向上や新たな事業機会の創出をもたらします。

デンカは、経営計画「Mission 2030」で描かれているサステナブルな事業価値の創造を目指し、「2050年カーボンニュートラルの実現」「環境保全・環境負荷の最小化」「資源循環の促進」に取り組んでまいります。また、「LCA(ライフサイクルアセスメント)の観点から環境負荷低減に資する製品・技術の提供」を進めてまいります。

カーボンニュートラルに向けた取り組み

デンカは、2050年度のカーボンニュートラル実現を目指してまいります。また、経営計画「Mission 2030」では、これまで表明していた削減量を見直し、2030年度には、CO₂排出量の60%削減(基準年度:2013年度)を目指しています。現在、クリーンエネルギーの拡充、低炭素原料への切り替え検討、自家火力発電所の燃料転換、ポートフォリオの見直し等数々の施策を検討、推進しています。



クリーンエネルギーの拡充

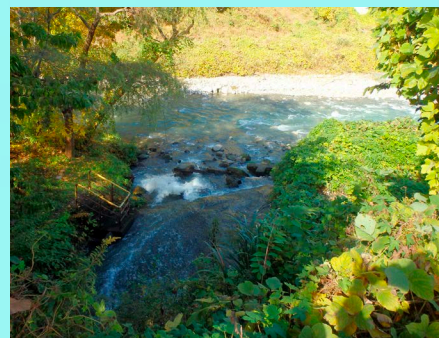
デンカが設立当初から建設を進めている水力発電所は現在17箇所(関係会社所有分含む)あり、その最大出力は14万kWになります。すべての水力発電所は、「流れ込み式」という河川の水の流れを利用して発電して、水を河川に戻す方法で、ダム式と比べて自然環境への負担が軽減されています。また、渋川・伊勢崎工場の他、ベトナムの工場と千葉工場にも太陽光発電設備を新たに設置しました。現在は、国内の各工場やグループ各社で、新設候補地の探索を進めています。これからも、当社の再生可能エネルギー比率を向上させ、生産活動に伴う環境負荷の低減を目指してまいります。



大網発電所

環境保全・環境負荷の最小化

COP26以降、気候変動対応と並び、自然環境との共生の重要性が高まっています。デンカは、ESG基本方針に「環境負荷低減と生物多様性の保全・保護」を掲げ、企業活動に伴う生物多様性に対する影響を把握し、保全・回復を目指していきます。生物多様性については、2022年度から企業活動と生物多様性への接点の洗い出し調査を実施しました。この調査をもとに企業活動が与える自然へのリスクと機会を抽出・評価し、対応策を検討・実施しています。今後も、関係機関や地元の自然環境の専門家の協力を得ながら、具体的な環境保全活動につなげていきます。



プラスチック問題への取り組み

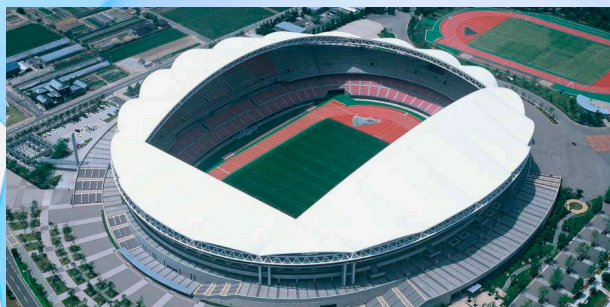
2024年3月、デンカと持分法適用関連会社である東洋スチレンは、使用済みポリスチレンのケミカルリサイクルプラントをデンカ千葉工場内に建設し、2024年3月より稼働を開始しました。ケミカルリサイクルプロセスの適用によるCO₂排出量削減と、同プラントによる新たなCO₂発生量を総合すると、既存の単純焼却プロセスに対して約40%の削減が可能となる見込みです。プラスチックは社会生活に欠かせない素材である一方、海洋流出などによる環境への影響が問題となっています。デンカグループは、ポリスチレンのケミカルリサイクルを推進することで、プラスチックの資源循環と環境への配慮に取り組みます。



社会貢献・健康経営

デンカビッグスワンスタジアム ネーミングライツ

デンカグループ社会貢献方針のもと、世界各国の文化・慣習を尊重しながら、地域社会に根ざした活動を通じてその発展に貢献すべく、2014年からデンカビッグスワンスタジアム（新潟スタジアム）のネーミングライツを保有しています。新潟県内には、当社主要製造拠点である青海工場（糸魚川市）および、ワクチンや検査試薬を生産する新潟工場・鏡田工場（五泉市）を有し、古くから深い関わりを持っています。



ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

社会の大きな変化の中、人々を取り巻く環境や暮らしも大きく変化しています。当社は、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（多様性を認め合う文化、誰にでも公平な機会の創出、誰もが歓迎され、評価される組織）を推進しています。多様な考え方をを持った従業員が活躍できる職場環境・制度・文化の醸成に取り組むとともに、その一環として、女性・経験者・外国籍の管理職比率向上を目指し、より高い企業目標に向かってチャレンジを続けています。



JSEC

当社は、2023年から朝日新聞社およびテレビ朝日が主催する「高校生・高専生科学技術チャレンジ（JSEC）」に協賛しています。JSECは、高校生・高専生を対象にした科学技術の自由研究コンテストで、理数教育の強化を目的とし、学生たちの課題解決能力を育むことを目指しています。デンカグループは、社会貢献方針のもと「教育・学術・文化の振興」を通じて未来のモノづくりを担う青少年の育成に努め、次世代の学術研究を積極的に支援し、文化の振興に貢献してまいります。



安全対策

当社は、グループ全体で従業員の安全対策に取り組んでいます。本質的な安全化と、安全対策としてのルールの整備および職場環境づくりを推進し、重大な事故災害ゼロに向け、第三者の視点をもって職場の危険源の見える化、設備点検、作業工程ルールの厳格化を行っています。また、従業員の教育体制を強化するとともに、円滑な職場コミュニケーションのための環境づくりを強化しています。



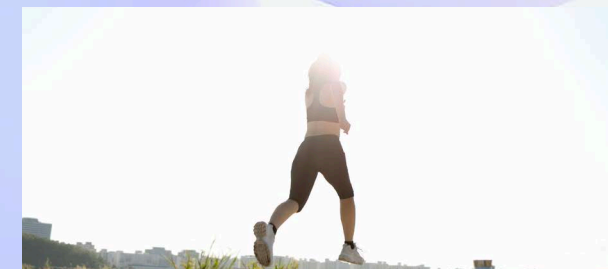
復興支援酒 tumugu

東日本大震災の復興支援として、当社では、復興支援酒「tumugu」を酒造メーカーにご協力いただきつくっています。2011年の災害発生当初から、南三陸町を中心に、がれきの撤去などのボランティア活動を行っていた当社は、津波により水田が壊滅的な被害を受けた同地区で、農地の再生と生産安定へのサポートを通じて本取り組みを開始。復興支援酒の名前「tumugu」は、ボランティア活動に参加した社員によって、東北の復興を願う人々の想いを紡ぎ、未来につなげてほしいという祈りを込めて、名づけられました。酒米「ひとめぼれ」の栽培には、当社の肥料や農業資材が使われています。



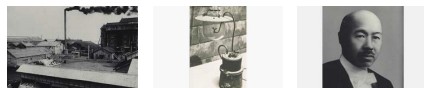
健康経営と働き方改革

企業にとって、欠かせない財産は「人」です。当社は従業員を「人財」と位置づけ、心地よく、かつやる気に満ちた働く日々を従業員の誰もが過ごせるように、「明日も来たる職場」のための制度改革の推進を行っています。健康経営のための働き方の改革を進めることで、従業員のエンゲージメントの向上に取り組み続けます。



Denka History

1915 創業期 石灰窒素の企業化に専念



北海カーバイド工場 アセチレンランプ わが国のカーバイド工業の祖、藤山常一

- 1916 大牟田工場、カーバイド、石灰窒素製造開始
- 1921 青海工場、カーバイド製造開始
- 1942 大牟田工場、アセチレンブラック生産開始

1945 有機成分分野への進出 化学品事業の有機的展開



電気炉から熔融されたカーバイド クロロエチレンプラント (青海工場)

- 1949 東京、大阪、名古屋各証券取引所に株式上場
- 1955 東洋化学(株)に資本参加
- 1958 群馬化学(株)を設立(現・当社渋谷工場)

1962 石油化学への進出 スチレン系事業の展開



創業当時の千葉工場 (昭和40年代) デンカポリマー香取工場

- 1962 中央研究所開所(現・デンカイノベーションセンター)
- 1969 伊勢崎工場(旧富士化工)を開設
- 1979 東京芝浦電気(株)から東芝化学工業(株)(旧・デンカ生研(株))株式を譲受
- 1980 デンカシンガポール社設立(アセチレンブラック製造)

1985 機能化学品への展開 当社のオリジナリティある経営資源の深耕



各種基板や放熱シートなどの熱対策製品シリーズ 半導体封止材向け溶解シリカファイバー デンカCSAが使用された太陽の塔

- 1985 渋谷工場、高放熱電子回路基板「ヒットプレート」製造開始
- 1987 千葉工場、スチレン系耐熱樹脂「マレック」製造設備完成
- 1989 シンガポールにデンカアドバンテック社設立(熔融シリカ製造)

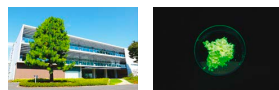
1990 事業の再構築 コア事業への特化



住友大阪セメント(株)と共同で建設した出荷設備 合併会社東洋スチレン(株)のポリスチレン製造プラント デンカシンガポール本社

- 1992 住友化学工業(株)との合併で千葉スチレンモノマー(有)設立
- 1996 塩化ビニル事業を東ソー(株)・三井化学(株)との合併会社大洋塩ビ(株)に移管
- 1998 ポリスチレン事業を新日鐵化学(株)・ダイセル化学工業(株)と統合、東洋スチレン(株)設立
- セメント事業で住友大阪セメント(株)と業務提携
- 2002 株式交換により東洋化学(株)を完全子会社化
- 2004 電気化学工業(上海)貿易有限公司設立
- 2006 デンカシンガポール社、ポリスチレン・クリアレン・透明樹脂の製造設備新増設

2014 第二の創業期 次の100年に向け、新しいスタートラインに立つ



デンカイノベーションセンター サイアロン蛍光体「アロンプライト」

- 2009 サイアロン蛍光体「アロンプライト」販売開始
- 2012 デンカシンガポール社、耐熱樹脂「デンカIP」製造開始
- 2013 デンカアドバンテック社、「トヨカロン」製造開始
- 電化無機材料(天津)有限公司設立
- 2014 デンカイノベーションセンター設立
- 2015 デュポンからクロロブレン事業を買収
- 2020 デンカ生研を吸収合併

2020 新型コロナウイルスへの挑戦 真に社会に必要とされる企業へ



新型コロナウイルス抗原迅速診断キット 新姫川第六発電所

- 2020 新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの国内製造販売承認を取得
- 2021 第一三共(株)から委託を受け、当社五泉事業所にてがん治療用ウイルスG47Δ製剤「デリタクト®注」の生産開始
※「デリタクト」は第一三共株式会社の登録商標です。
- 新型コロナウイルスとインフルエンザウイルス同時迅速診断キットの国内製造販売承認を取得
- 2022 当社17カ所目となる水力発電所「新姫川第六発電所」が運転を開始
- セメント事業からの完全撤退を決定
- タイ・SCG Chemicals 社とアセチレンブラック製造販売事業を行う合併会社設立に向けた契約を締結
- 2023年度からの新たなビジョンと経営計画「Mission 2030」を発表

2023 未来に向けて 新しい未来に向けて、いまデンカが目指すこと

新ビジョンと経営計画「Mission 2030」始動
※詳細はP3、P4をご参照ください。

- 2026 大船工場閉鎖
- 体外診断用医薬品事業を手掛ける(株)カイノスを完全子会社化
- 2027

[詳細情報はこちらへ](#)

■本社 ■営業拠点 ■生産・研究拠点 ■主要グループ会社

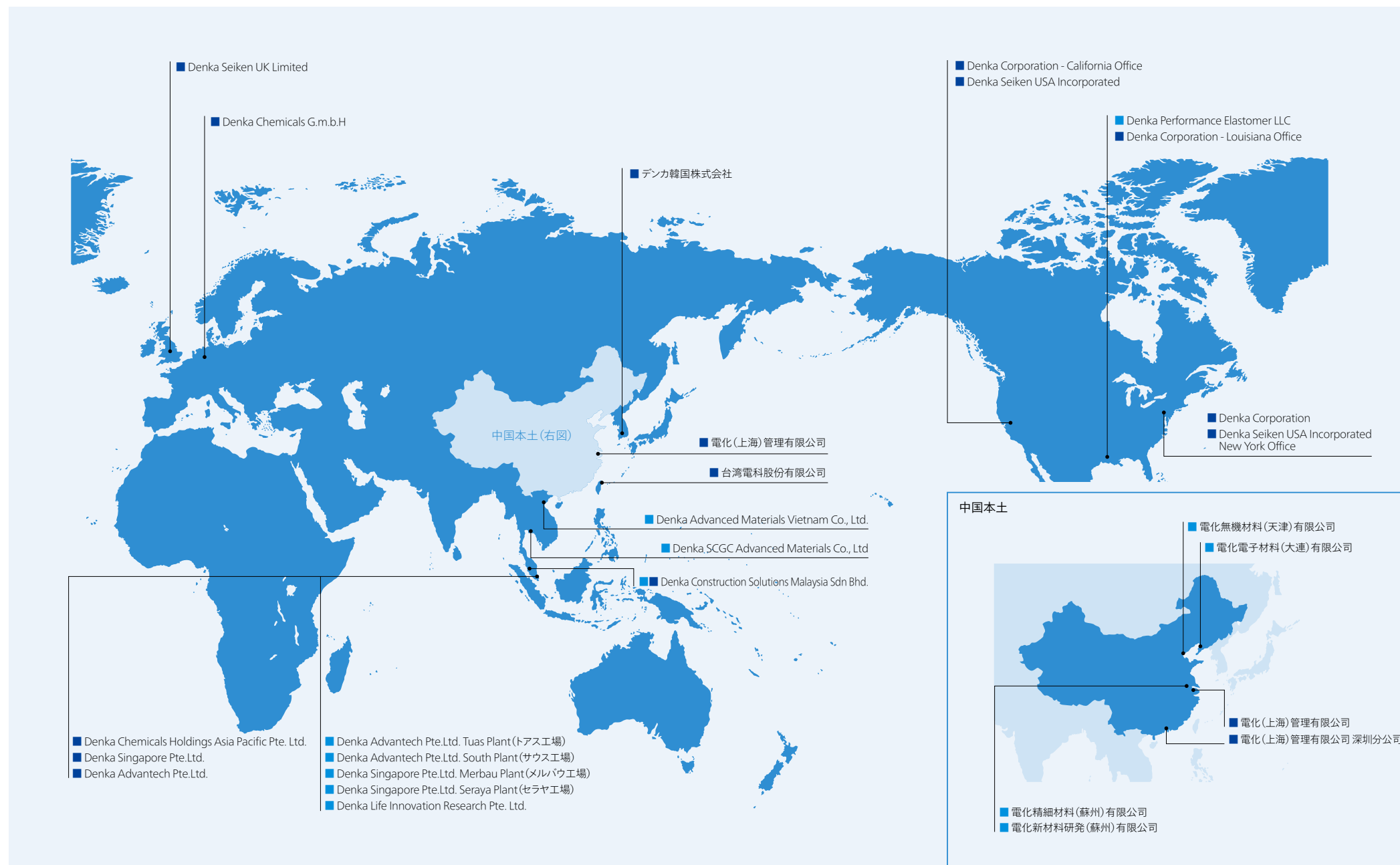


世界に広がる、デンカグループの営業・生産拠点ネットワーク

[詳細情報はこちらへ](#)

GLOBAL

■営業拠点(海外法人) ■生産・研究拠点



Denka Company Limited

デンカ株式会社

〒103-8338 東京都中央区日本橋室町2丁目1番1号

創業1915年(大正4年)5月1日

資本金36,998百万円(2025年3月31日現在)

従業員数 連結 6,542人 単体 4,369人(2025年3月31日時点)



発行 2026年4月